

【1 分解説】米国の国家安全保障戦略(NSS)とは？

取締役 総合調査部長 石附 賢実

米国の国家安全保障戦略（NSS、National Security Strategy）は、同国の安全保障に関する最上位の戦略文書です。2025年12月に公表されたNSSの最大の特徴は、「米国第一」を軸に、西半球（南北米大陸）を最優先とする姿勢を明確にした点にあります。また、価値観や国際秩序より、米国自身の安全と繁栄に直結する利益を重視する考え方が全体を貫いています（資料）。

中国やロシアへの向き合い方にも、その姿勢が表れています。民主主義対権威主義といった価値観の対立は強調されず、両国への強い批判は避けています。一方で、台湾海峡をめぐる「一方的な現状変更は支持しない」とし、第一列島線（日本列島から台湾、フィリピンを結ぶ防衛ライン）の防衛をめぐる、日本や韓国の名前を具体的に挙げ、防衛費負担の増加を促しています。

欧州については、包摂的な価値観や移民の増加を同盟の弱体化につながるものとして捉え、その行方を不安視する米国の一方的な視点が強調される一方で、実務面では欧州・ロシア間の戦略的安定の回復と、自立した欧州によるNATO同盟の持続性確保に力点が置かれています。

欧州、アジアについて、ともに一見すると「価値観・原則」と「個別判断」との間で整合性を欠くようにも見えますが、そうした矛盾を解消することを重視していない点に、トランプ政権の特徴が表れているともいえます。

資料 米国の国家安全保障戦略(NSS)の新旧比較

	バイデン政権：2022 NSS	トランプ政権：2025 NSS
① 基本思想 (価値観/国益)	「自由で開かれた国際秩序」を掲げ、価値観と同盟を軸にアメリカの関与を強調	「米国第一」を前面に、米国の利益に直結する分野に資源配分を絞り込む傾向
② 地域の優先順位	欧州・インド太平洋など幅広い地域関与と連結性を重視	西半球を最優先に位置づけ、域外勢力の影響拡大を警戒
③ 中国・ロシアの位置づけ	中国を「最大の競争相手」、ロシアを「差し迫った脅威」として明確に位置づけ	名指しの強い批判を避け、関係性の管理を意識した書きぶり
④ 同盟の扱い	同盟・パートナーを戦略の中核に据え、結束と協調を重視	同盟国に「役割と負担の拡大」を求め、日本・韓国を具体的に挙げて防衛費増額を促す
⑤ 経済安全保障	先端技術・重要サプライチェーンの強靱化	重要サプライチェーンの強靱化と重要鉱物・重要物資へのアクセス確保

(出所) 第一生命経済研究所作成

関連レポート

- ・「自由の守護者か、秩序の破壊者か、変貌する米国～Freedom in the World 2025 公表、米国の「力の支配」を憂う～」(2025年4月) <https://www.dlri.co.jp/report/id/431272.html>